

1 災害とは

- 1 自然現象
暴風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波、噴火
- 2 その他の異常な自然現象
冷害、干害、雹害、旋風、地滑り、山崩れ、崖崩れ、土地の隆起、沈没等
- 3 大規模な火事、爆発
- 4 政令で定める原因により生ずる被害
放射性物質の大量放出、船舶の遭難、航空機事故、極端な雑踏等

2 防災とは

- 1 災害を未然に防止(災害予防)
- 2 災害が発生した場合に被害の拡大防止
(応急対策)
- 3 災害の復旧

3 本県の防災上の特徴

- 1 広大な海域に点在する島々により構成
- 2 台風の通過コース
- 3 島嶼により構成され大雨時には浸水・土砂災害が発生
- 4 津波への対策が必要

4 豪雨災害に対する防災上の課題等

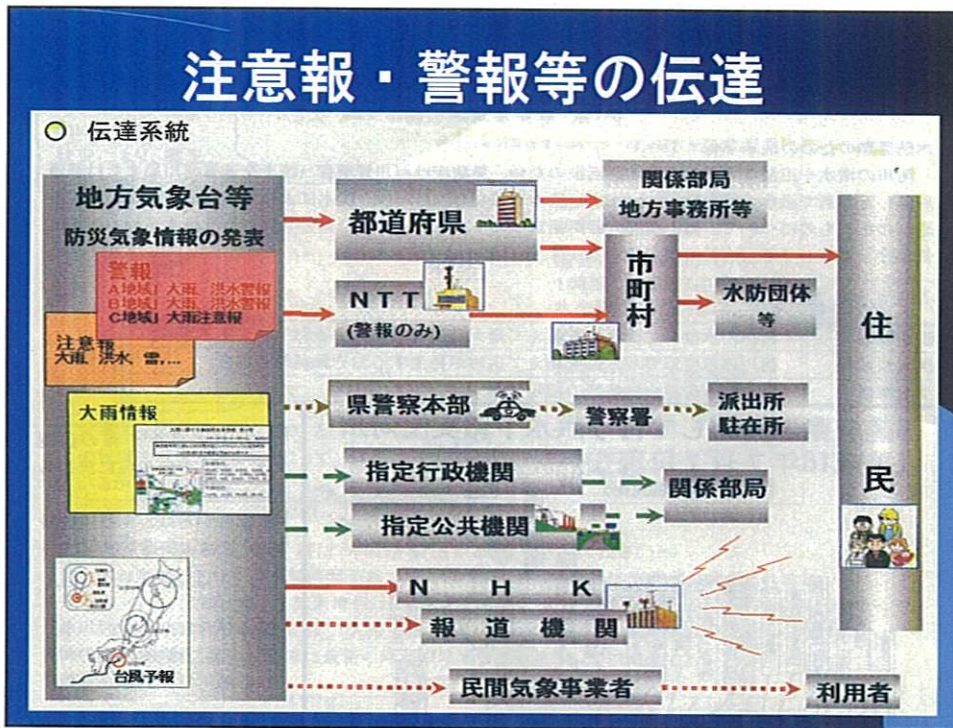
- 4-1 防災情報の伝達
- 4-2 高齢者等の避難
- 4-3 総合的な治水対策の推進
- 4-4 気象観測・予報体制の充実強化
- 4-5 その他

4-1 防災情報の伝達

- 防災行政無線の普及促進
- ハザードマップの作成・活用
- 避難勧告・指示・避難行動マニュアルの整備
- 住民に対する啓発

4-2 高齢者等の避難

- 高齢者等の災害時要援護者の避難支援
ガイドラインの策定
- 消防団等の充実・強化
- 早期避難ための水位情報



8 地域防災力の向上

- 1 防災専任職員の配置
- 2 災害時のマニュアル作成
- 3 地域の危険度を公開
- 4 消防体制の強化

9 沖縄県防災情報システムとは？

県、市町村・消防本部で、災害警戒と災害対策に活用する情報システム
(端末パソコンにより情報を利用)

何ができるのか？

- A 防災気象情報を伝達する
- B 被害状況を収集し、情報を共有
(画像、数値情報、詳細情報)

A 防災情報システムによる気象観測情報の伝達

従来の防災無線(音声、FAX)による通知
→課題: 応答時間、回線占有、紙の浪費

- A-1 新規の注意報・警報をポップアップ通知
- A-2 市町村・消防向けの気象情報提供画面
(気象庁情報、県観測情報、ウェザーニュース情報)
- A-3 県民向けの気象情報(インターネット配信)

A-1 注意報のポップアップ通知

上部のバーが赤く点滅して知らせる
(音声でも通知)



A-2 市町村・消防向け気象情報(1)

①気象台端末画面



A-2 市町村・消防向け気象情報(2)

①気象台端末画面(緊急防災情報提供装置)
沖縄気象台の発表情報を通知する端末
(※消防防災課内にある端末と同じ情報画面)

②防災情報システムの気象情報画面
気象庁情報 + 県情報(河川水位,雨量,震度) +
ウェザーニュース情報

■どちらもWebブラウザ・ソフトを使って表示する
(インターネットのWebページ閲覧と同じ)

B 防災情報システムによる 災害情報の収集と共有

B-1 災害発生の登録(現場写真+概要)

B-2 災害状況の報告と修正(詳細情報、
経時変化に伴う登録、追記変更)

B-3 災害報告様式の作成支援(自動集計)

B-2 被害状況の報告(1)

まず被災者、住家被害、避難世帯数等の数値を報告し、詳細が判明したら追加、修正する



- 人的被害
 - 住家被害
 - 避難世帯数
 - 浸水被害
 - 対策済/未了
 - 危険性大/小
- +
- 地図上の位置
(点、線、範囲)

B-2 被害状況の報告(2)

- 報告された被害情報を集約して一覧表示
- 地域ごとのマップに情報を集約して表示



17 地域における防災の課題(1)

◇ 防災情報を住民にどう伝えるか

防災情報

- ・市町村防災行政無線
(屋外拡声器、戸別受信機)
- ・テレビ、ラジオ
- ・携帯電話メール、HP
- ・消防団
- ・自主防災組織
- ・携帯電話、携帯用無線機
(休日・夜間の体制)

地域住民



18 地域における防災の課題(2)

◇ 住民の避難(行動)をどう確保するか

防災情報

危険情報

- ・過去の災害例
- ・災害の兆候
- ・防災マップ(避難先、避難経路)
- ・避難訓練
- ・要援護者の把握

地域住民



避難
(行動)

19 災害に対する心構え

- 1 自然災害は必ず発生する
- 2 自分の住んでいる場所の災害履歴を知る
- 3 自分の生命・身体・財産は自分で守る
- 4 自助・共助・公助

20 地域の消防の役割

- 1 消防体制の充実強化
- 2 消防団等の充実強化
- 3 自主防災組織の育成